

## 令和4年度第1回鴨川市健康づくり推進協議会 要録

1 日時 令和4年8月24日（水）午後2時30分から午後4時10分まで

2 場所 鴨川市総合保健福祉会館（ふれあいセンター）2階 研修室

3 出席者（敬称略）

（1）委員 会長 村永信吾、副会長 金井重人

川崎 淳、丸山祝子、宮本利子、唐鎌武則、前田桂子

（2）市執行部 市長 長谷川孝夫

（3）オブザーバー 鴨川地域保健センター 次長 児玉一世

（4）関係課職員

〔市民福祉部〕市民生活課長 塚越均、子ども支援課長 石井利彦

福祉課長 鈴木克己

健康推進課 介護保険係長 石井和美

福祉総合相談センター 主任保健師 田中和代

〔教育委員会〕学校教育課長 関口和則

（5）事務局 市民福祉部長 牛村隆一

健康推進課 課長 角田守、課長補佐 笠井千種

課長補佐（新型コロナ対策室長）鈴木卓

保健予防係 係長 尾形正一郎、主査 鎌田智佳子

主任保健師 野村浩子、主任保健師 高橋由希子

保健師 笹子洋子、保健師 吉野礼華、保健師 花野成美

管理栄養士 山本理恵、主事 飯塚大斗

新型コロナ対策室 保健師 田中有里

4 内容（会議要旨）〔進行 鈴木課長補佐〕

（1）開会

- ・会議に先立ち、今年度新たに委嘱をした唐鎌武則委員（鴨川オーシャンスポーツクラブ会長）及び前田桂子委員（市内小中学校長会会長）をご紹介します。
- ・事務局から鴨川市附属機関設置条例第5条第2項の規定により会議が成立となることを報告。

（2）あいさつ

- ・会長あいさつ

本日は時節柄お忙しい中、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。

本日の議件は、市が実施しました令和3年度の保健事業の実施状況、並びに令和4年度の事業計画につきまして、委員の皆様方のご意見、ご提言を賜りたいと存じますので、何とぞご協力のほどお願いいたします。

・市長あいさつ

本日は、新型コロナウイルス感染症が拡大するなか、鴨川市健康づくり推進協議会を開催させて頂きましたところ、委員の皆様には、ご多用な中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、日頃より、委員の皆様には、保健・福祉行政に対しまして、深いご理解とご協力を賜っておりますこと、心から感謝申し上げます。

先ほどご紹介させて頂きましたとおり新たに委員となられました、唐鎌武則委員、前田桂子委員のお二人に委嘱をさせて頂きましたところ、ご快諾を賜り、重ねてお礼を申し上げます。

さて、皆様ご承知のとおり、第7波における新型コロナウイルス感染数が、第6波を越える勢いを見せており、予断を許さない状況となっております。本市におきましても感染者数の累計が2,900人を超える状況となっております。現在、3回目接種に加え、4回目のワクチン接種体制の整備を進めております。また基本的な感染症対策を講じながら、経済対策についても進めているところです。

また、国では、保健所や医療機関の負担軽減を図るため、新型コロナウイルス陽性者の全数把握や濃厚接触者の待機を求める感染症法上の二類相当の運用について、見直しの検討がされていると報道等され関心が高まっている状況であります。併せて十月にはオミクロン株対応の新たなワクチン接種の実施も予定されているところであります。

本市におきましても、接種が実施されるようになった場合には、接種体制を迅速に構築するよう準備を進めておるところです。

そのような中、本市では、誰もが健康で、安心した生活が享受できるよう、健康寿命の延伸を重視した「第三期鴨川市健康福祉推進計画」に基づき、「健康・長寿日本一の鴨川」を目指し、健康づくりを推進しております。

本年度は、総合検診をはじめとする各種検診事業や健康づくり事業を、感染予防対策を講じながら、コロナ禍前の状態に戻し実施して行くこととしております。

特に、総合検診では、受診率向上に向けた取組みとして、ソーシャルマーケティングを活用した受診案内を実施するほか、健康づくりの意識醸成を図るため、運動や検診など自ら行った健康づくりに対しまして、ポイントを付与し、特典として市民に還元するかもがわ健康ポイント事業を引き続き、実施して参ります。

また、平成25年度から積極的勧奨が差し止められていましたHPVワクチン、いわゆる子宮頸がんワクチンの接種が本年度から再開したことにより、これまで接種機会を逃した方を対象に公費で接種できるようキャッチアップ接種事業を実施しております。若い時期から高齢期までのすべての方のライフステージに応じた幅広い健康づくりの推進に努めて参りますので、委員の皆様にはこのような取り組みにご理解を頂き、引き続きのお力添えを頂ければと思っております。

この後、担当から令和3年度事業の実施状況、今年度の重点施策について、説明させていただきますので、委員の皆様方には、様々な見地から、忌憚のないご意見、ご指導を賜りま

すよう重ねてお願いを申し上げ、挨拶とさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

(3) 議件 [議長 村永会長]

- ・議長から議事録署名人として唐鎌委員を指名し承諾を得る。
- ・議件1 令和3年度保健事業実施状況について [説明 尾形保健予防係長]  
事務局から、資料1健康づくり推進協議会資料により説明を行い、原案のとおり承認された。説明後の質疑等に係る主な発言は次のとおり。

村永会長) 資料1の4ページ合計特殊出生率が令和2年の数値が1.23から1.41に上がっているが、上がった要因となる何かしらの対策があったのか、また考察があったら伺いたい。

尾形保健予防係長) 合計特殊出生率についてのお問い合わせですが、まず出生に関する数値は、資料1の3ページに出生数の推移がございます。出生数については、近年減少傾向にあります。令和2年は前年比で出生数は増えておりますが、特別に何かしらの対策を行ったということは無く、要因についても現状では把握できておりません。  
一方で資料1の4ページの合計特殊出生率は令和2年の数値が上がり県内7位となった状況です。合計特殊出生率については、令和2年の他市等の出生の減少などの状況との相対的な比較となり、結果的に県内順位も7位に上がったとみております。

唐鎌委員) オーシャンスポーツクラブは、15年ほど前に国の総合型地域スポーツクラブ施策で誕生し、いつでもどこでもだれでもがスポーツを行う機会を整えるということで進めています。人口が少ない地域は種目が偏ってしまう傾向があり、また子供が行う種目が中心になっているというところがあります。  
現在、自分は退職しているが、現役時代はやはり時間が無く、体を動かそうと思っても動かせなかった。しかし、退職すると合間の時間がとれるようになるので、ストレッチや体を動かそうという気が出てきているように感じます。  
オーシャンスポーツクラブは、創設時にいつでもどこでもだれでもがスポーツの機会をつくるという目的の外に、医療費を抑制していきたいという問題意識もあった。医療費の増加が見込まれる退職後の60代から70代の男性を健康にしていかなければいけないとの思いもあるなかで、60代から70代の男性の健康づくりのきっかけとなるような、例えば健康ポイントなどの健康づくりのきっかけとなる事業について、現在行っている事業の状況について伺いたい。

尾形保健予防係長) 保健予防係でも各地区の健康づくりサロン活動の支援は行っておりますが、その参加者の多くは女性であるという認識はあります。

唐鎌委員のご意見のとおり60代から70代の特に男性という対象者へのアプローチについては、係内でも問題意識はあります。

山本管理栄養士) 60代から70代の特に男性への支援はとのことですが、現状では男性に特化した事業というのは行っておりませんが、市内にウォーキングを行う団体がございます。

その団体は男性の方が多い団体で、やはり退職後の方が参加されている状況です。男性の方に好評なコースの傾向は、起伏が大きかったり筋トレ的な要素があるものが好まれているようです。

一方で、ウォーキング団体には女性の参加者もいらっしゃるのですが、筋力の違いなど体格差もあるので、男性の趣向に特化した活動については、団体内での活動内容のバランスを取りながら行っている状況かと思えます。また、コロナ禍において昨年来、団体の活動も自粛している状況があります。

村永会長) オーシャンスポーツクラブの活動というのは、主に子供向けの活動が中心とお話しをいただきましたが、プログラムの中で高齢者向けのプログラムというのは組んでいらっしゃるのでしょうか。

唐鎌委員) 本来的には子供から大人まで全ての世代を対象にした活動ではありますが、実際には子供の種目が多いです。

例えば、サッカーは競技として活動しています。またKCCのプールでのウォーキング、卓球、バレー、ボクシングといった活動もしていますが、やはり子供が行っているスポーツが主となってしまいう傾向が強いです。

大人だけで行うという種目を話し合っても、なかなか見つからない状況ですが、体育館などに集まって各々が好きなスポーツをやってみようというのが本来の総合型地域スポーツクラブの流れでした。しかし、各々が好きな種目をとくと、人が集まったり集まらなかったりと、運営が難しい状況となったので、結果的に種目を限定して人を集めて活動を行っていくということになっています。例えば、60代、70代の方が会場に集まってすぐに始められるスポーツ・運動があればそれは良いとは思っています。オーシャンスポーツクラブの種目は増やすことも出来るので、例えば、先程ウォーキングの話がありましたが、何曜日の何時にどこでといった予定を組んで活動することは可能なので、市民みなさんの要望があれば種目を増やして活動を行って行ければ良いと思っています。

村永会長) ありがとうございます。昨年東京オリンピックが開催されて、国の方向性としてはオリンピックレガシーだとか、オリンピックだけで終わらせるのではなくその後の取り組み、その後どう繋いでいくのかという大きな話題ともなったので、鴨川においてもそういった取り組みと協調するなど、オーシャンスポ

ーツクラブにおいても子供だけでなく壮年期の方なども、みんなで一元的に取り組める流れになれば良いと感じます。

金井委員) 心の健康づくりの点においてお伺いします。自殺予防に関して、自殺をする年代によって対応の仕方が変わってくると思いますが、最近は仕事を始めた若い方達が、社会に対応できなくて、うつを発症して、自殺既遂までは行かないものの希死念慮が強まる状況が、ここ最近増えているなどという印象があります。一方で、地域性を考えると、自殺者数が年間7人というデータがあるが、恐らく高齢者、中高年という世代なのかなと思っていますが、事務局で今、7人の年代の内訳などを把握されていれば伺いたいと思います。

野村主任保健師) 今この場で詳細なデータについては把握しておりませんが、千葉県から定期的に人数の報告はございますので、お調べすればお答えできるかと思っています。

金井委員) 鴨川市の人口比率等から考えれば、やはり高齢者、中高年が多いのかなと察します。その世代の自殺をまずは予防する取り組みは大事だと思います。年代的には民生委員との連携、公共施設への掲示などは良いと思います。令和3年度はコロナ禍で民生委員等への取り組みが難しい状況とのことですが、今後も更に取り組みをお願いしたいと思います。

先程触れましたが、若い世代のストレス、うつが増えていますので、その世代に対する対策も今から行っていかないと結果的に、数年度増えていくということに繋がってしまうので、若い世代に対する対策も行政として取り組んでいただきたいと思いました。具体的には、中学、高校くらいから命の授業について、しっかり取り組んでいくことが結果的に、20代くらいの自殺を予防していくことに繋がると思いますし、更には小学生でも希死念慮を持っている子はいるので、やはり予防対策の取り組みが出来れば良いと思います。

中高生などに対する取り組みなどがあれば伺いたいです。

関口学校教育課長) 自殺予防を含めて学校では年3回、学期に1回程度、様々なアンケートを取り、子供達の悩み等に対応するよう努めております。また、全校に毎日ではございませんがスクールカウンセラーを配置してございますので、子供達がスクールカウンセラーと定期的に相談を行えるようになっております。担当の養護教諭とスクールカウンセラーとで情報交換を行い子供のこころの健康に努めております。

学校では子供達の自尊感情や自己肯定感が低くなっていないか等の調査も行っており、子供達が学校生活の中でつまづいたり、仲間関係で上手くいかなかったり、ストレスを感じたりという部分についても教

育相談という形で学級担任を中心に対応しております。

村永会長) 全校というのは、市内の小・中・高の全ての学校ですか。

関口学校教育長) 市内の小・中学校になります。

丸山委員) HPVワクチンの接種をキャッチアップできるのは良い施策だと思いますが、一方でここ数年間、勧奨できなかったことが、将来どのような結果になってくるかは不安に思っています。

鴨川市として、HPVワクチンの接種率の目標値をどのくらいに設定して実施しているのかお伺い出来ればと思います。

また、キャッチアップ接種の勧奨などの周知を、若い女性にどのように行っているのか。そしてウイルスによって、がんになるというところが、まだ知られていないということもあると思いますので、例えば二十歳の成人式の日など、二十歳からがん検診を毎年1回受けていただくといった啓発や周知は、どのようにされているのかお伺い出来ればと思います。

笹子保健師) HPVキャッチアップ接種につきましては、対象の方に今年の5月、3回接種を完了していない方が約1,300名いらっしゃいましたので、全数個別で接種の勧奨通知を送付いたしました。対象の方に通知をした後は、やはり接種に関する問い合わせは、多くいただいております。

接種にご理解いただくという点では、厚生労働省で作成しておりますリーフレットを同封いたしまして、疾病やワクチンについての理解を深めていただけるよう努めております。

接種率の目標値につきましては、定めているものはございませんが、出来るだけ多くの方に接種していただけるよう周知を行っております。

併せまして、キャッチアップの世代に対しましては、17歳から25歳までの方が対象になりますことから、性感染症という観点からHPVワクチン接種だけではなく、検診も同時に受診していただくよう推奨していく必要がありますので、二十歳からの検診についても、キャッチアップ接種の案内にリーフレットを同封いたしまして周知をさせていただきます。

・議件2 令和4年度保健事業実施計画について [説明 尾形保健予防係長]

事務局から、資料1健康づくり推進協議会資料48ページ以降により重点施策を中心に説明を行い、原案のとおり承認された。説明後の質疑等に係る主な発言は次のとおり。

村永会長) 各種検診事業において、ソーシャルマーケティングを活用とありますが、具体

的にはどういった手法でしょうか。

高橋主任保健師) 健診の過去の結果や健診時に取ったアンケート結果、また医療・介護・健診のデータを備えた総合システムであるKDBシステムから抽出したデータを活用して、一人ひとりの特性に合わせた勸奨方法を、AIを活用し7種類の種別に分類し受診勸奨通知を該当者へ送付しております。これは、平成30年から実施しているもので、開始時から受診率も徐々に上がっている状況ですが、一昨年、昨年はコロナ禍において総合検診が中止となりましたので受診率は下がっている状況です。

村永会長) 勸奨通知について、AIが分類したら対象者に配信され、対象者は受信したら自身のデータが可視化されるといったイメージでしょうか。

高橋主任保健師) 健診結果からタイプ毎に分類され、頑張り屋さんタイプですとか、甘えん坊タイプですとか個々の性格に合わせたような内容にして通知を送るといったものです。

村永会長) 例えばそれがメタボの対象者の場合は、その対象者が動機付け以前であれば、動機付けに繋げていくとか積極的支援にするとか、そういった個別通知が送られるということでしょうか。

高橋主任保健師) そういった分類で送付させていただいております。

村永会長) その通知を受け取った後というのは、本人がどうするか選択をさせるといったものですか。それとも通知の内容に合わせた具体的な対策については、行政の保健師が連絡して勸奨を行っていくことになるのですか。

高橋主任保健師) 受診勸奨の通知については、年に2回に分けて行っておりますが、1回目の通知では受診されなかった方に対して行っており、2回目の通知は案内の内容を変えて再度、受診勸奨の通知を行っております。

村永会長) 了解しました。ありがとうございました。

非常に積極的にライフステージに応じて色々な取り組みをされているとの印象を受けております。ただコロナ禍の中で進展が思うように行かないというところはあろうではございますけれども、今後、ウイズコロナの中でどのように事業を行っていくのかは、我々の知恵による活動であると感じております。

・その他

全ての議案の承認後、村永会長からその他として委員へ意見を求め、その意見は下記のとおり。

宮本委員) 食生活改善推進員が高齢化しており、また一昨年、昨年とコロナ禍において活動も思うように出来ておりません。今後、若い世代の推進員を育てていくためにも、からだすっきり教室をこの状況ではありますが、再開していただいて若い推進員を確保していかなければ、食生活改善推進員の事業も進んで行かないのではないかと考えているので、事業の再開に向けて対策をお願いしたいです。

村永会長) 貴重なご意見ありがとうございます。いま推進員の皆様は何人いらっしゃるのですか。

宮本委員) 94名になります。

村永会長) 具体的に市から取り組みがあったらお知らせいただきたい。

角田課長) 食生活改善推進員の高齢化については、お話しを伺ったことがございました。当課といたしましては、栄養改善事業等について強化を図りたいという思いもございますことから、からだすっきり教室など食生活改善推進員の皆様の活動についても、コロナ禍の状況ではございますが、活動しやすい状況を確認したいと考えております。また、女性だけではなく男性にも入っていただくなど活動が活性化できるよう努めて参りますので、宮本委員のご意見についてもご相談させていただきたいと存じます。

川崎委員) 多くの事業があるなかで、どこまで幅を広げ、どこまで行うかというのは難しい判断になるかと思えます。  
説明の中で目標数値について、達成状況の説明がありましたが、目標数値については、策定時に何かしらの根拠に基づき設定されたものだと思います。目標数値の設定根拠等について、一例で構わないので教えていただきたいです。また、コロナ禍において、やろうとしていた事業がやれない状況となってしまっている。例えば検診事業が縮小したことについて、市民が受診しなかったことによるデメリットが発生していたとすれば、どのようなデメリットが発生したのか分析できれば、市民に対し受診しないことのデメリットと受診することのメリットを、検証結果として発信でき、次回以降に市民が受診する際の動機、モチベーションに繋がるかと思えます。

野村主任保健師) 例えばがん検診ですが、厚生労働省の審議会でも毎年議論されていること

ですが、国民の生活アンケートの中でがん検診を何かしら受けているかという項目で、受診率が高いがん検診は四十数パーセントほど、低いがん検診二十数パーセントという、国民の自己申告によるアンケートの調査結果が出ております。

一方で、市町村で行っているがん検診を人口で割り返した数値になると、十数パーセントと、アンケート調査の受診率と実態の受診率とで乖離が見られます。

その乖離は何かというと推測となりますが、職場の検診で受診しているのだろうと考えています。国民が市町村のがん検診ではなく、職場やかかりつけ医で、がん検診を受診しているのだと考えられます。

数年前の疫学的な調査では、検診受診率が50パーセントを上回ると早期発見の割合が大きく向上し健康寿命が延伸するという調査結果、研究報告がございました。その辺を加味しまして、国では検診受診率50パーセントを目標としておりまして、本市におきましても同様の目標値を設定しております。まだまだ現実の受診率と大きく離れているところではございますが、目標達成に向け取り組んでいるところであります。

村永会長) 重点事項との取り組みの目標としているところは、健康寿命の延伸としているとも思いますが、鴨川市の健康寿命のデータはあるのでしょうか。

野村主任保健師) 資料1の20ページの数値目標に平均自立期間という指標がございます。千葉県健康情報ナビという情報ツールにも公開されておりますが、こちらの平均自立期間が本市の数値となっておりますので、健康寿命の延伸についての指針として取り扱っております。

村永会長) 健康づくりのゴールについては、平均寿命の伸び率よりも健康寿命、平均自立期間の伸び率が上回るというのが、国が言っている健康政策の目標であると思われまますので、この数値が見えると取り組みが形になりやすいと感じます。

長谷川市長) 大変貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。只今、健康寿命について話がありましたが、私たちの生活も行政もそれを目指しているところでもありますので、一人でも多くの健康をそして医師に雇う人が減れば、本市としても助かる場所でもあります。健康な人が一人でも多くなる施策が大切だと思っています。

先程来、ライフステージに応じた健康づくりについて、本市独自また他市で同様な事業が行われていることもあるかと思われまますが、もっともったこうした事業を市民に知らせていくということが大事だと思っております。

例えば平均自立期間という数値の話がありますが、これは他市の実態と比

べるものではないかと思われませんが、市民が自分たちの健康をどうすればこの平均自立期間が延びるのかといった目標がしっかり持てるような施策が必要だろうなと思ったところでもあります。

引き続き皆様方から貴重なご意見を頂戴しながら、健康日本一という施策を掲げているところでございますので、こうした事業を市民の皆さんにしっかりと周知できるような取り組みをもっともっとしていかなければならないと思いますので今後ともどうぞご助言をお願いいたします。

村長会長) 本日は、皆さんから多くの貴重なご意見を頂き、また、円滑な議事進行にご協力を頂きまして、ありがとうございました。

また、事務局におかれましては、本日、皆さんから提案された意見や提言を踏まえて、市民の健康づくりに取り組んで頂きたいと思います。

#### (4) その他

- ・事務局から、委員の任期及び健康ポイントシートについて説明を行い、質疑等は特になく終了。事務局の主な発言は次のとおり。

尾形保健予防係長) 各委員の任期について、お知らせをいたします。予定では、本年度の健康づくり推進協議会は今回のみの開催としておりますが、本日、ご協議をいただきました委員の皆様の任期につきましては、来月16日までとなっております。

事務局といたしましては、健康づくりの継続的なご審議をいただくうえで、現委員の皆様に継続して就任をお願いしたいところではございますが、来月以降の次期委員につきましては、後日、改めて事務局からご相談差し上げたいと存じますので、お含みおきくださいますよう、この場をお借りしましてお伝えさせていただきます。

山本管理栄養士) 本日、追加資料として健康ポイント事業のシートをお配りいたしました。本シートについては、8月1日から事業を開始しておりますが、市民一人ひとりが運動や血圧等の計測といった健康づくりに取り組んでいただいてポイントをためていただくと特典が得られるといった事業となっております。特典としましては、検診の受診無料券としておりまして、検診の受診勧奨にも繋がる事業となっております。以上、この場をお借りしましてお伝えさせていただきます。

#### (5) 閉会

以上

令和4年9月2日

議事録署名人 委員 唐鎌 武則